

平成 29 年度第 2 回 函館市高齢者計画策定推進委員会 会議概要

■ 日 時

平成 29 年 7 月 25 日（火） 18 時 30 分～19 時 45 分

■ 場 所

市役所本庁舎 8 階第 1 会議室

■ 議 事

- (1) 介護保険事業の現状について
- (2) 日常生活圏域とサービス資源（基盤）の現状について
- (3) 各種調査の結果について

■ 配付資料

- ・ 会議次第
- ・ 介護保険事業の現状（資料 1）
- ・ 日常生活圏域とサービス資源（基盤）の現状について（資料 2）
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（資料 3 - 1）
- ・ 在宅介護実態調査（資料 3 - 2）

■ 出席委員（13名）

朝倉委員，天羽委員，池田委員，岩井委員，小川委員，奥野委員，川口委員，木村委員，熊川委員，佐々木委員，所委員，能川委員，八幡委員

■ 欠席委員（2名）

恩村委員，中村委員

■ 傍 聴

0名

■ 報道機関

1 社（北海道新聞社）

■ 事務局職員

保健福祉部 介護保険課 深草課長，山中主査，江良主任
保健福祉部 高齢福祉課 佐藤課長，岩島主査，中村主査

■ 会議要旨

1 開 会

2 議 事

事務局：山中介護保険課主査

審議に入る前に、前回の委員会で奥野副会長から質問のあった利用者負担割合の見直しについて説明させていただく。

(利用者負担の判定の流れについて説明)

奥野副会長

給与所得，事業所得，年金所得の3所得を挙げているが，所得の種類は10種類あり，不動産所得，配当所得，雑所得等その他の所得も含まれるという理解でよいか。その他の所得も含まれるという補足説明がないと限定した所得だけが対象となると誤解されてしまう。

事務局：山中介護保険課主査

例に挙げた3所得以外の所得も含まれることになる。

(1) 介護保険事業の現状について

事務局：山中介護保険課主査

(資料1「介護保険事業の現状について」に基づき説明)

所委員

質問ではないが，4ページ以降の折れ線グラフの凡例の印が判別しにくく，もう少し見やすければと思った。

事務局：深草介護保険課長

今後はカラーで配付する等分かりやすくしていきたい。

池田会長

それでは事務局から次の説明をお願いする。

(2) 日常生活圏域とサービス資源（基盤）の現状について

事務局：山中介護保険課主査

(資料2「日常生活圏域とサービス資源（基盤）の現状について」に基づき説明)

熊川委員，佐々木委員

〈記載内容の誤りについて指摘〉

事務局：深草介護保険課長

申し訳ございません。

事務局：山中介護保険課主査

すみません。後で精査する。

池田会長

後で精査願いたい。他に何かあるか。

能川委員

資料12ページの東部圏域について，高齢化率が10圏域の中で一番高いが，認定者の出現率が10圏域の中で2番目に低い。この辺の分析はないか。

事務局：深草介護保険課長

出現率が低いのは，介護認定を受けていない高齢者が多いということであり，東部圏域だと周りに支えてくれる人が多いが，市内の方に来ると1人で住んでいる方も多いため，介護サービスの手を借りようという部分も多いのではないかと考える。

川口委員

介護認定を受ける人がいないのか。

事務局：深草介護保険課長

介護認定を受けている人が少ない。

池田会長

介護認定を受けない元気な高齢者が多いということか。

川口委員

昆布採りで働いて元気な高齢者が多いのでは。

熊川委員

そもそも認定申請をしないと認定者にはならないので，本来は要介護になりそうな人でも家族と一緒にいるから認定申請の手続きをしていない。そういうふうにも考えられるのでは。

佐々木委員

資料8ページの北東部第1圏域と12ページの東部圏域の認定者数を比較すると，北東部第1だと1,591人，東部圏域だと1,001人だが，大きく違うのは要支援1・2の軽度者の人数で，北東部は600人くらい，東部は300人くら

いで、介護度が高くなると当然必要性も高いので一定程度の要介護認定者はいるが、東部は軽めの元気な人は介護サービスを受けずに家族の支援や周りの支援を受けている傾向にあるのではと感じた。

所委員

10年前くらいから南茅部に仕事に行っていたが、最近もここの数字は変わらないなと思ったところ。

先ほど言われたように昆布採りとかお仕事されてる方も多く、繁忙期には猫の手も借りたくらいで、実際要支援認定を受けてる方も昆布をやったりする。

あとは病院にかかっているからいいんだという方もいる。

またデイサービスであれば、南茅部は端から端までの長い距離を曜日ごとに地域を分けていたりする。サービス量の違いもあるのでは。

最近、ここの地域も沢山の家族で住むという形は減ってきて困っている方も中にはいるようだが、まだ地域や漁業の関係の人達で支えているのが出現率が低い要因なのでは。

池田会長

今の佐々木委員や所委員の説明でだいたいわかったのでは。

それでは事務局から次の説明をお願いします。

(3) 各種調査の結果について

事務局：山中介護保険課主査

(以下の資料に基づき説明)

- ・資料3-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- ・資料3-2 在宅介護実態調査

池田会長

何か質問はあるか。

川口委員

資料3-1の7ページの「地域包括支援センターの役割を知っているか」というアンケートに「知らない、名前のみ知っている」と回答した人が40パーセントを上回ってる。

もう少し町内会の事業に包括支援センターの方が積極的に参加してくることが必要ではないか。地域が動くのを待っている状態では包括支援センターの認知度は高まっていかないのではと感じている。

佐々木委員

ニーズ調査報告書の163ページ～166ページは包括支援センターについての設問ですが、センター側から実際の声を聞こうと、この設問の項目を入

れてもらったところである。

私達が実際にやっていて変わったなと思ったのが、圏域が6か所から10か所に分かれた時に関わる町が絞られて、少し入り方が変わってきたのと、町会の方々との関係が少し濃くなったと感じている。ただ、川口委員がおっしゃるように私達が地域に仕掛けを作るとか、地域に提案をしていくというのは、これからの課題だと感じている。

池田会長

10圏域にしていただいぶ活動が見えてきてる部分もあるということで、よかったなと思う。川口委員が言うように前からこのような問題はあった。ただ他の包括支援センターもこのアンケートの結果を見ながら検討しているということで、段々改善されていくかなと思う。

最後に全体を通して何かあるか。

佐藤高齢福祉課長

今日は現状報告だったが、今後全国データが示され、全国比較の中で函館市が弱いところなど示されて議論が進んで行くと思うので、よろしく願いしたい。

3 その他

事務局：山中介護保険課主査

今回の委員会については9月25日(月)18時30分から、こちらの市役所本庁舎にて予定している。委員会の開催案内については、別途また送付させていただきます。

4 閉会